

## M19b 太陽フレア望遠鏡の白色光・G-Band 画像の較正及びデータ公開

矢治健太郎, 鈴木 勲, 大辻賢一, 森田 諭, 篠田一也, 花岡庸一郎 (国立天文台)

国立天文台太陽観測所では、太陽フレア望遠鏡の T4 部分にて 2012 年 6 月より、白色光 (5300Å) と G-Band (4305Å) の 2 波長による太陽全面像のシノプティック観測を終日行なっている。T4 は口径 12.5cm の屈折式で、CMOS カメラを使用し、1 回 30 フレームで撮像している。画像サイズは 2080x2080 ピクセルである。また別途、較正用のダーク及びフラット画像を取得している。露出時間は太陽画像の明るさに応じて自動選択されるシステムである。現在の観測では、30 フレームのうち良画質のもの 1 枚を自動判断し保存している。これは 5 分ごとに 1 枚保存していることになる。

現在、画像データのコントラストや観測時のシーイングを考慮して、さらに 1 時間に 1 枚程度セクションし、データベース上で公開するべく準備中である。この画像データを用いることで、太陽光球全面の日変化を追う基礎データとすることができる。

さらに、新黒点望遠鏡で適用している黒点数計測自動化プログラムを、以上の白色光画像にも適用して黒点数を計測し、これまで観測してきた黒点数と比較する。特に 1 日の間のシーイングに応じて求まる黒点数に変化が生じるのか吟味し、これまで行なってきた黒点数計測の妥当性について検討を行う。